

土浦一高の英語の授業

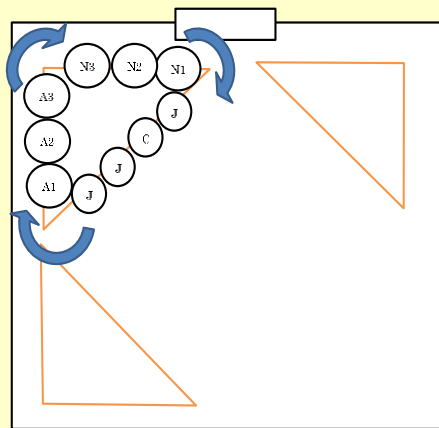
入学を考えている中学生の君へ

土浦一高では、「高校英語日本一」を目指して授業を行っています。英語力テストに現れる「得点」と英語技能の「運用力」の両面で日本一を目指しています。ライバルは日本全国のトップ校です。ここでは、英語の授業の一部を紹介します。実際の授業の様子は「動画ブログ」でご覧いただけますが、まずは以下の説明を読んでみましょう。

土浦一高の履修科目の1つである「英語表現」の授業ではディベートを行っています。学校教育で行われるアカデミックディベート(教育ディベート)の中でも、本校では**即興性重視型のパラメンタリーディベート**を行っています。この種のディベートは、論題を発表してからディベートまでの準備時間が短いため、**即興的に**話さなくてはなりません。論証重視型のディベートとは違い、話すことを暗記しておいて読み上げるようなことはできません。よって、聴いている人に理解してもらえるように、自分の言葉で「話す」ことが必要になります。**英語を使えるようになりたい**皆さんにはうってつけの学習活動になります。また、**チャレンジングな活動なので、土浦一高でしかできない英語活動**とも言えるでしょう。

ディベートの形式は本校独自の”Mini-debate”で行っています。3~4人が1チームを組み、3チームがトライアングルの形に机を並べて行います。それぞれのチームは賛成(A)・反対(N)・司会(C) & ジャッジ(J)に分かれます。

賛成・反対のチームのメンバーはそれぞれ「立論」「反駁(はんぱく)」「要約」という別々の役割と責任を担うので「全員参加型」の活動になります。ただし、お互いがそれぞれの役割を助けてカバーし合うことは許されます。1ラウンドは15分程度で行います。第1ラウンドの勝敗が決した後の第2ラウンドでは、賛成側だったチームは反対側に、反対側だったチームは司会 & ジャッジに、司会 & ジャッジだったチームは賛成側に立場を入れ替えます。



つまり、1つの論題に対して、次のラウンドでは全く別の立場から試合に臨むことになります。今まで行ったディベートの論題は「選挙に行くことを義務化すべきか」「積極的な安楽死を合法化するか」などです。まさに、**主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動**と言えます。

以上の説明を読んでみると、なんだかとても難しそうに思いませんか？ しかしながら、実際に、土浦一高生は全員がこの学習活動を生き生きと楽しめてしまいます。そこには土浦一高独自の「関連記事のシェアリング」「スモールステップ」「ピラミッド・アクティビティ」「4技能統合型」「ALTが毎日常駐」などの秘密があります。ここでは全てを説明できませんので、続きは学校説明会などで質問してみるか、土浦一高英語科に直接、連絡してみましょう。

英語の授業中、ディベートの勝敗が決する瞬間には、「やったー！」「よし！」「うわ〜っ！」という言葉が教室中に飛び交います。また、ジャッジ役のチームによって選ばれるベストディベーターの発表の瞬間には、誇らしげで満足感に満ちた笑顔や嬉しさではにかんだ顔が見られます。これほど盛り上がる授業はなかなかないでしょう。ちなみに、土浦一高の文化祭である「一高祭」では、全校を挙げての日本語によるディベート大会が行われ、とても盛り上がります。中学生の皆さん、ぜひ、一緒に「高校英語日本一」を目指して楽しんでみませんか？